

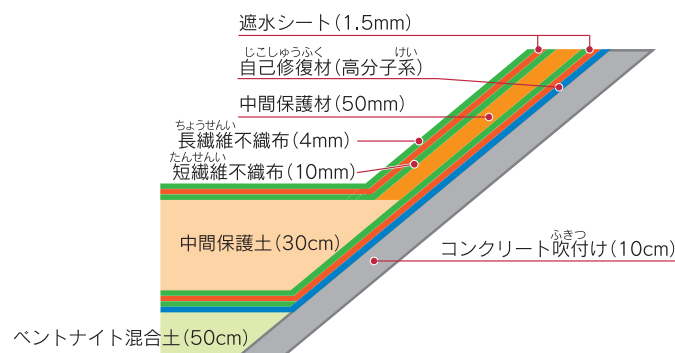
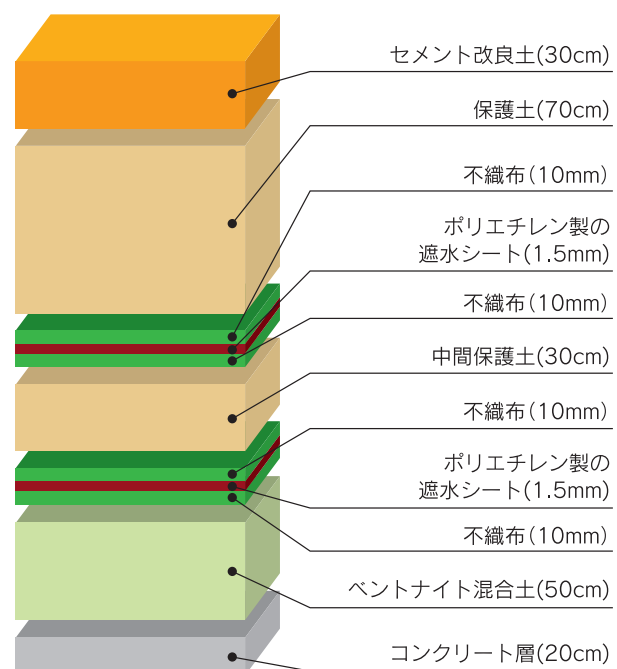
埋立地

Q 埋立地に水をまいたら、地下にしみこまないの？

A:「多重遮水構造」で、ずっと先まで安全に

埋立地は、図のようなたくさんのしゅるいの土やシートなどが重なり合う「多重遮水構造」で、よごれた水がしみこまない工夫がされています。

一番下に、コンクリートの層(厚さ20cm)。その上に水を通しにくい粘土層(ベントナイト混合土)とポリエチレン製の遮水シート(1.5mm)。その遮水シートを、フェルトのような布(不織布)ではさんでいます。上の方の遮水シートは、とがった廃棄物などで破れたりしないように、保護土(70cm)とセメント改良土(30cm)が上にのっています。シートと粘土という、ちがう材料を組み合わせることで、それぞれのいいところを生かして、水を通さないようになっています。ずっと先まで安全に使うためです。



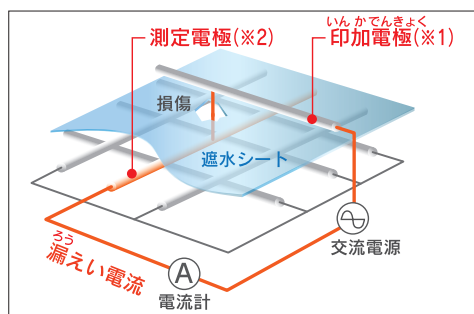
Q もし水がもれたら、分かるのかな？

A:「電気式漏水検知システム」が、はたらくから分かるよ

もし何か起きて遮水シートがやぶれて水がもれたときには、漏水検知システムがはたらきます。そしてやぶれた場所をさがしだし、すぐに直すようになっています。



測定電極(中間保護土の上に設置)



漏水検知システムの原理

※1 交流電圧を加える電極

※2 漏れいした電流を測定する電極



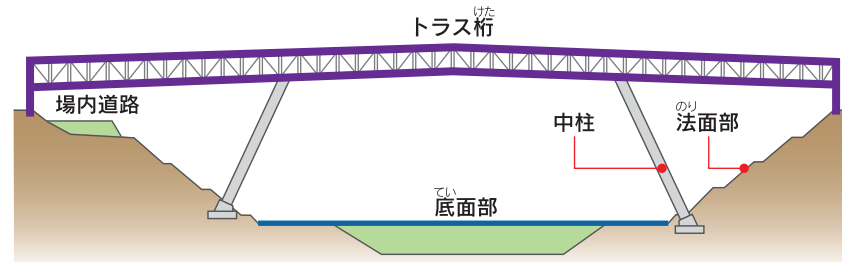
覆蓋施設

Q 覆蓋施設ってなんだろう？

A: 地しんや強風にたえる強さで、埋立地を守るよ

「おいかなぶさる」という意味の覆蓋は、しん度6強～7の地しんが起きてても、この施設が問題なく動くようにつくられています。しん度6弱までの地しんでは、ひがいが出ない強さを持っています。また、とても強い台風の風にも負けないうつくられています。

この大きな覆蓋(屋根)をささえる中柱は処分場のそこではなく、まわりのしゃ面から立ててあります。これは、処分場のそこにあなをあけずに屋根をささえるための工夫です。あなをあけないことで、まいた水が地下にもれないようにできるからです。



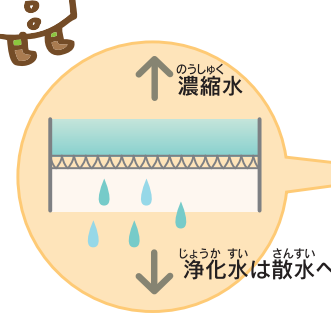
安心だね！



水処理棟

Q 廃棄物にふれてよごれた水は、どうなるの？

A: とくべつなそうちを通して、きれいな水にします



廃棄物にふれてよごれた水をしんじゅつすいといまふ。これを、ウイルスも通さない小さなあな(1～2ナノメートル※3)が開いたまゝに通して、よごれや有がいな物しつを取りのぞきます。これを「ろか」といい、ろかした水は、水道の水以上にきれになります。このそうちは、海水を水道の水よりきれにするほどの力があります。

※3 1ナノメートルは10おく分の1メートル